



田村名
引込瀬村に住ま
む位与工間という
男は、田すま
名人で着物を
泥一粒、水一滴に
つけると色く
田と云くという
神業をも、川は
と伝えられていふ。

昔、弘瀬の靜平太君が、栲原の
四万川にある龍王様のお参りの
帰りに下津井で白鳥落れ、山の中
で光り出すものを拾つて、因か
けわじに、代々と家に帰した。
その白鳥が光るものは、白蛇と
白蛇だ。たので、龍王様の
お便りがあると思ひ、祠に建て
石で囲つて示してゐる。
とき、日本のお金根元におき、
2013年5月、ガバ利益がある
かもしれぬ。
1字も白蛇の図、という。

作業道が糸団の目の
ように通っている。
イジジの
又々端が
たぐんたぐん

弓場神社
2頭の虎が屋根を
守っている。

このあたり北の川城跡
田平連氏・上山氏の居城
と云われる。

契茶 7059-3

広瀬トネル
852

大元神社
觀音堂
（海蔵庵）

四、海濱

多分おとしいにふたつ
場にはふたつ。
4ヶ所まで通行可。
下等車はかきとて1/15

長七若宮(長七禰)
昔、相五村に住む高目の
長七が、人の世の無情と云ふに
長七は至天に雲の中に入り、天の
神の靈と祓へたお宮。
環状目の恵い人に御利益が
あるといわれ、新厩に訪れ、人々を明い
朗い山の山手。畑の形、林の可ぞ。
河内神社より 約700 m 下流

「七ッ川」の中心地だ。川原
子といふところの元氣な婆や
笑ひ、声がよくひびく。
保育園、小学校、中学校の
すみななかわかれ、子ども
たちは、地味の空。

上宮波下橋 532架 85m
この橋が架かるまでは
上・中・下舟。舟の3ヶ所
から渡し船が運航して
いた。
通学路であり
子とも優先。

相伝の由来

二子

栗股谷(栗谷)と蛭食谷(蛭谷)が、
箕邊の中世で合流した山間伝説地
である(彦前)の多々あるところとい
う意味でつけられたと伝わる。

化川とルンツ村、栗また村として
長曽我部氏検校の「喜多川村」の真に
記されている。

また、郷村村帳には「相伝」、「相伝
相伝」の村名として出てくる。

参考文献
大正町史
大正のむかし話

宿 せうせいしん

馬之助神社